

音の輪・音の和



2023年 3月発行 No.13

音楽療法を ご存知ですか？



音楽療法とは、「音楽のもつ生理的、心理的、社会的働きを用いて心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などに向けて、音楽を意図的、計画的に使用すること」（日本音楽療法学会の定義）

でも、ちょっとイメージしにくいかもしれません。
そこで、兵庫県音楽療法士会理事長の井上さんに尋ねてみました。→ P.2

兵庫県音楽療法士会って どんな会？

→ P.2～3



どんな活動をしているの？

- P.6 コンサート・依頼講演
- P.7 研修会・事例研究会

どんな セラピストがいるの？

- P.3 第10回山口陽雄記念賞
- P.5 あなたの町のセラピスト



Withコロナと私たち

- P.4 対面・
オンラインのセッションの工夫



いろいろな楽器、音楽

- P.8 楽器紹介、音楽の豆知識

理事長就任1年目を終えて

今年度は対面での研修会も予定通り進み、公開研修会も再開できました。また伊丹市で参加型コンサートを主催し、たくさんのお客様にお楽しみいただきました。コロナ禍においても感染症対策を講じながら、活動の大きな柱である研修会やコンサート活動が当たり前のように開催できたことは、当会を代表する者として安堵の思いでいっぱいです。当たり前とは？「何事も無かったように普通に」とか、「自然に」とかの意味があります。しかしながら、コロナ禍において私達が自然に対象者と関わることが

一般社団法人 兵庫県音楽療法士会 理事長 井上 恭子

どれほど普通では無かったか、嫌というほど思い知らされました。

どうしたらよいか迷った時には、何のためにやっているのか、目的は何なのかをもう一度思い起こすことが1番です。私たちの使命であり目標の「音楽療法に興味関心をもっていただき、兵庫県民の皆様に音楽療法を広めること」に向かって模索しながらも前に進んでいるこの状況は、会員一人一人の大変な努力と忍耐の積み重ねの賜物と、今就任1年目を終わるにあたりひしひしと感じています。

音楽療法を ご存知ですか？

音楽療法につきまして、みなさまのようなイメージをお持ちでしょうか？今回は井上理事長に、広報部の池田さんが、音楽療法について尋ねてみました。井上理事長がやさしくお答えいたします！



ずばり、音楽療法とは—

井上（以下、井）：音楽療法を受けに来られる方は、「認知症の母に笑顔を取り戻してほしい」「人と関わるのが苦手だけど本当は友だちがほしい」等、それぞれ「こうなったらいいなあ」という望みをお持ちです。音楽を使い、一緒に対象者の希望に向けて進んでいくのが音楽療法だと思います。

池田（以下、池）：お医者さんの『治療』とは違うんですね。対象者は、病気を抱えた方や障がい者、高齢者等ですか。

井：お元気な方の介護予防や、未就園児と親が集う場等でも音楽療法が取り入れられています。

池：音楽療法の対象者は幅広いんですね。

音楽療法ってどんなことをするの？

池：音楽療法は、癒しの音楽を『聴く』というイメージがありますが…。

井：それも音楽療法の一部ですが、聴くだけでなく、対象者自身が歌ったり、楽器を演奏したりする場合もあります。

池：どんな人にどんな音楽を提供するのですか？

井：私は、対象者が希望された曲は取り入れるようにしています。その人が今何をしたいのかを感じ取り、まずそれに合わせた音楽を提供します。次に「こんな音楽はどうでしょう？」と提案し、変化を促すこともあります。どんな音楽が良いかは、対象者次第という気がします。

池：一人一人にオーダーメイドするのですか。

井：大人数での音楽療法では、一人一人のニーズに合わせるの難しい場合もありますが、少しでも対象者それぞれの気持ちを引き出す可能性のあるような音楽を使いたいと思っています。

池：施設では、音楽に合わせて体を動かす等のレクリエーション活動をされていますが、それと音楽療法は違うのでしょうか。

井：私はレクリエーションも音楽療法の一つだと考えています。集団で盛り上がって気分を活性化する等、療法的な目的を持った活動は音楽療法の一つだと言えるでしょうが、音楽療法はその場限りのものではなく、毎回記録を取り、振り返り、継続して行う点が他の音楽活動と違うと思います。

音楽療法を行うとどのようなになるの？

井：気分の浮き沈みの大きい方が、非常に気分が落ちていた時でも、定番の音楽の場面になると、ハッと気付いて気分が良い状態の時と同様の表情をしてくださいます。また、認知症の方がトーンチャイムの音を聴いて「お寺の鐘や」と仰った、その方の心の琴線に触れた瞬間でした。偶然のよう

にも見えますが、実はその方との音楽を通しての活動の積み重ねがあってこそその効果です。

池：音楽療法を継続していく中で効果が表れてくるのですね。成果が出た時は、嬉しいですね。

井：私は、音楽療法士が効果を出しているのではないような気がします。私たちは音楽できっかけを提供するけれど、実際に良い表情に変化していかれるのは対象者ですから。私はこの場に居合わせて良かったという気持ちです。その時、私は音楽療法士としてというより、素の自分になっています。

音楽療法士ってどんな人？

井：人が好きな人。何もしなくても一緒にいて苦じゃない人。演奏が上手なら良いわけではありません。

池：施設や病院でコンサートが開かれることがあります、演奏家と音楽療法士は違うのですか？

井：演奏家にとって主は音楽ですが、音楽療法では主は対象者、その人にどう響くかを考えます。

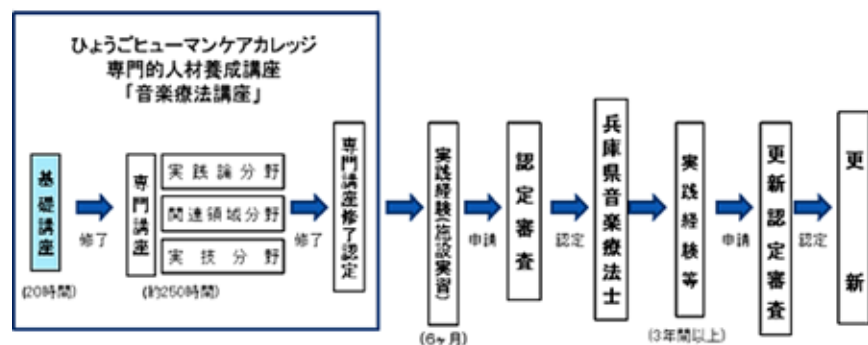
池：では音楽療法士になるためにはどんな勉強をすれば良いのでしょうか。

井：音楽スキルだけでなく医療や福祉分野の知識も必要ですし、それと同時に、実践の中で対象者から学ぶことが多いです。実践だけで知識が無ければ、実践で起こってくるものの意味がわからないので、知識と実践の両方が必要ですね。私自身、実践を重ね人生経験も重ねて、昔学んだ知識が今やっと『腑に落ちる』と感ずることがあったり、対象者との関わりの中で「今こうした方がいい」と思うことが、若い頃とは変わってきたりしています。

兵庫県音楽療法士会って、どんな会？

井：兵庫県音楽療法士養成講座で、同じ学びを経た音楽療法士の集まりです。兵庫県内にもっと音楽療法を広めたいという思いを持って活動しています。毎月1回研修会などを20年間ずっと続けていますので、メンバーの仲間意識も高いですよ。音楽療法を希望される方は、音楽療法士会事務局（➡P.8 information）へご連絡ください。

兵庫県音楽療法士養成・認定のながれ



兵庫県からの補助が終わって

鞘本 尚子

（前理事長 2006年～2011年まで「音楽療法導入促進事業」コーディネーター担当）

兵庫県音楽療法士として認定をいただいた私たちは、兵庫県内で音楽療法の普及を図る使命があり、その活動のために兵庫県からたくさんの手助けをいただいた。その手助けの柱であった補助事業が「兵庫県の先導的役割はおおむね果たせた」として2021年度で終わった。補助事業の1つが15年間続いた「音楽療法導入促進事業（その後名称変更）」（補助内容：初めて音楽療法を導入する施設等の療法士への謝金を基準額5,000円として半額補助を年度内実施）。そして4年間実施されたのが「県内参加型コンサート」で、これは「音楽療法の周知が不十分であるとされる地域5か所で開催」と決まっていた。（補助内容：打合せや練習等の規定回数の会場費・出演者の交通費・本番会場費・本番出演料）。兵庫県の補助事業が終わった今、いよいよ独り立ちの時がやってきたということでしょう。

兵庫県内で音楽療法を普及させることが使命であることは変わらない。当会は発会から20年間様々な機会兵庫県の支援をいただいて活動してきたおかげで、兵庫県内に「音楽療法」「兵庫県音楽療法士」という名称は広く知られてきている。しかし今後は補助が無い分提供する音楽療法の質を上げていかなければ音楽療法の普及につながらない。やはり音楽療法士は学ぶことから解放されない。「百人いれば百通りのセッション」と言われるように、様々なアプローチがあることを本や机上の勉強だけではなく、仲間からも学びたい。そういう意味で当会には多くの仲間がいて学びあうチャンスもある。コンサート活動で多くの仲間と触れ合う機会や、役員になることで会について多くのことを知ることにもなる。兵庫県への感謝と仲間とともに前進することを忘れずに活動を続けていきたい。

第10回山口陽雄記念賞受賞

継岩会員に、インタビューしました。

♪受賞されて…この賞は私たちの会（（一社）加古川音楽療法研究会）に頂いたと思っています。20数年の間には、それぞれ病気や介護など色々ありました。その度にみんなで支え合い補い合いながら乗り越えてきました。そんな私たちの活動を評価していただいたことを大変嬉しく、光栄に思います。

♪研究会や一般社団法人を立ち上げた経緯…私は四国出身で、震災直後移り住んだ加古川には知り合いもなく、まずは加古川に基盤を作らなければと思い、友人3人と地域に根ざした音楽療法の実践・研究・啓蒙活動を目指し「加古川音楽療法研究会」を立ち上げました。その後も地域での講演や講座、養護学校、療育センターと、少しずつ活動が広がり、2004年に12会場からスタートした加古川市の介護予防事業も、今年は50会場になりました。会員も14名となり、仕事をしていく中で組織の必要性を感じ、2013年に「一般社団法人加古川音楽療法研究会」を設立しました。

♪今後の活動について…コロナ禍、ビデオレター等を作成して施設に届けたり、養護学校や小学校、幼稚園から依頼を受け、コロナ禍に対応した音楽プログラムを先生方と一緒に考えました。その中で、今まで以上に声を合わせ歌うことの喜び、生の声や音でしか味わえない音楽の力を強く感じています。これからもその土地、場所、施設の特性を生かした音楽療法を考え、音楽療法士仲間や療法士を目指し勉強している後輩、地元を元気にしたいといつも快く力を貸してくれる演奏家たちと共に日々研鑽を積み、歩み続けたいと思います。



後列左から 鞘本尚子会員（当会前理事長）
山口直子氏（向陽病院常務理事）
前列左から 山口紅子氏（向陽病院名誉会長）
継岩典子会員
阿部恵氏（頤栄短期大学名誉教授）
2022年5月22日兵庫県福祉センターにて

山口陽雄記念賞：兵庫県での音楽療法の発展と当会発足にご尽力下さった故山口陽雄先生（元向陽病院理事長）が、生前、音楽療法のさらなる普及発展と、音楽療法士の士気向上を図る目的で設立された賞です。ご逝去後もご遺族がその遺志を引き継いで下さり、毎年度会員1名に授与されます。

継岩典子会員

1999年加古川音楽療法研究会主宰、その後一般社団法人加古川音楽療法研究会を設立、音楽療法を目指す者の学びの場を作り、地域に貢献する。2018年から2年間、当会理事を務める。

以上の功績により、2022年度第10回山口陽雄記念賞を授与される。

コロナ禍により、従来の音楽療法を継続することが難しい日々が続いています。しかし、私たち音楽療法士は使命感を持って、音楽療法を必要としている人に、音楽を届けようと努力しています。今回は対面でのセッションを継続している会員と、新たにオンライン配信に取り組んでいる会員2名に、コロナ禍ならではのセッションの工夫についてお話を聞きました。

●対面セッション（砂川 弓子会員）

コロナ前から週1回、入所施設で非常勤の音楽療法士として勤務されている砂川弓子さん。コロナ禍にあっても、オンラインも併用しつつ、対面でのセッションに継続して取り組まれています。

対面セッションは感染予防対策をしながら実施しています。施設によるこまめな換気・消毒やマスク着用の推奨はもちろんのこと、キーボードの前に透明アクリル板を設置し、音楽療法士は極力移動しないようにすることで参加者と一定の距離をとっています。座席のレイアウトは円形から全員が前へ向く形に変更。対象者は施設側がグループ分けを行い、1回あたりの参加者数を減らしました。参加者同士は椅子一個分の間隔を空け、ソーシャルディスタンスを確保。使用する楽器はマラカスや鳴子など、消毒可能な物に限定し、セッション中の体操で使用する長い紙の棒にも透明ビニールを巻き付けて消毒可能な仕様に変更しました。楽器や小物の配布や回収は、音楽療法士ではなく施設のスタッフが対応するなど、感染予防の工夫を重ねられています。

緊急事態宣言が発出された2020年4月から5月は、セッションは休止。その後、施設から「どのような対策を取れば対面でのセッションを再開できるか」との打診があり、電話やメールで検討を重ねられました。最終的には施設に赴き、感染予防対策を担当者と確認し合い、2020年6月から対面でのセッションを再開されました。その後、緊急事態宣言の発出時などは休止期間もあり、対面が難しいと施設が判断した場合はやむを得ずオンラインでの実施となることもありましたが、現在まで週1回、原則として対面でのセッションを継続されています。

コロナ禍においては、「集まって、声を出して歌う」ことに制限がかかってしまいました。しかし、砂川さんの勤務する施設では、参加者も歌唱を行っています。一時は外出もままならない厳しい状況の中にあっても、音楽療法を通して「歌うこと」を楽しんでほしいという施設の想いに、砂川さんは共感されたそうです。「これからも施設と二人三脚で、感染予防対策を徹底しながら、参加者と一緒にセッションを楽しんでいきたい」と語られていました。



●オンラインセッション（福田 佳寿美会員）

関西に数力所ある高齢者施設の社員として活躍する音楽療法士の福田佳寿美さん。以前は、各施設を巡回してセッションをされていたが、コロナ禍を機に、ご入居者・ご利用者を対象にオンラインで「歌の会」の一斉配信をされています。

オンライン配信のきっかけは所属長からの提案で、当初は鑑賞メインであったそうです。毎日のように配信することで、普段音楽療法を受けられない方も参加でき、福田さん自身も感染を持ち込まないという安心感の中で実施できるメリットも大きかったと語ります。

オンラインセッションはZoomを利用し、配信側はキーボード、マイク、モニター、パソコンを使用。受信する施設側は、パソコンをHDMIのケーブルでテレビに繋げて、大画面に映し出します。この日は5施設の計11フロアが参加、時間になると各施設のスタッフが次々とアクセスし、テレビ画面に施設の様子が現れます。

福田さんのアップの画像で、『こんにちはみなさん』の歌が始まると、画面の中で皆さんが手拍子で答えます。音のズレを解消するため、発信側以外はミュートに。普段よりもペダルを控える、音の数を減らす、声と重ならない音域で伴奏する、自然に視線が合うようなカメラ位置や、動作も大きくわかりやすく配慮しているそうです。画面共有で歌詞を提供されていますが、福田さんの画像が小さくなってしまったため、皆さんの注意が逸れないよう、1曲終わるごとに大きな画面に戻して登場し、名前を呼びかけ、手拍子を促し、一体感を味わえるように工夫されています。身体を動かす活動も多く取り入れ、現場スタッフとの連携やフォローにより、皆さんが楽しく熱心に参加されている様子が映し出されます。

昨年度は「歌の会」の一斉配信を約260回、加えてグループホームのフロア別配信を約130回実施されたとのこと。皆さんのADL維持や、音楽療法の効果（誤嚥性肺炎予防、デュアルタスク、交流など）を周知する一助になったのでは？と福田さんは感じているそうです。オンラインの一斉配信は、対面のセッションが再開された現在でも週1回、継続されています。

閉塞感の大きかったコロナ禍で始まったオンライン配信の音楽療法ですが、新たな形態として定着し、オンラインのテレビ画面から福田さんの澄んだ声が一斉に各施設に響き渡り、楽しく有意義な時間が流れていました。



あなたの町のセラピスト

●稲家 里美会員（赤穂市在住）

稲家さんは、地域の一般の方を対象に公民館で月1回介護予防の音楽療法をされています。ご自身のお母さまの介護をきっかけに、介護する側も介護予防をする必要性を感じ、地元の仲間6名の方と音楽あそび「ほっとたいむ」を立ち上げられました。60歳代から上は90歳の方が参加され、「ほっとたいむ」の日を楽しみにしておられます。セッションでは、音楽療法士の稲家さんが主セラピストをし、サークル仲間のお二人がアシスタントをしてセッションの記録も取っているそうです。始めに「声を出して誤嚥予防、歌とリズムで脳トレ、思い出歌って認知症予防」とオリジナルの歌を皆で歌います。目的をはっきりと示した上で、楽しく、そして少し難しい課題にチャレンジしながら、やる気や気づきが大事であることを、音楽・音を通して伝えておられます。イントロクイズはとても盛り上がり、

稲家さんのお人柄で笑いの絶えない会になっています。「経験豊富な参加者さんのお話がとても勉強になり、地域の皆さんとの交流が自身の介護予防と癒しの時間になっています。」と言われます。セッション後は、ランチ兼振り返りを行うことが有意義な時間で、次のセッションのアイデアが浮かんでくるそうです。年1回、東備西播定住自立圏形成推進事業（赤穂市上群町備前市のイベント事業）の支援を受けて『ほっとたいむ ミュージックセラピーコンサート』を3ヶ所で開催されるなど、共感しあえる音楽仲間や参加者との交流を大事に地域でご活躍されています。



●住野 由佳子会員（姫路市在住）

音楽療法にヴァイオリンを取り入れて実践しておられる住野さんにお話を伺いました。

Q：音楽療法との出会いを教えてください。

A：音楽大学在学中から音楽を使って人の役に立てることがしたいという想いがありました。兵庫県音楽療法士養成講座を修了後、兵庫県音楽療法士となり現在に至ります。今も仲間たちとワークを中心とした自主勉強会をしています。

Q：ヴァイオリンは音楽療法ではどのように使われていますか？

A：主にクールダウンに使用しています。ヴァイオリンで落ち着く方もいらっしゃいます。状況によってはそれ以外にも使用し、その時の状況や対象者の雰囲気や曲は考えています。

Q：住野さんがお会いした対象者の方で印象に残っている方はいらっしゃいますか？

A：重度の知的障害の男の子との出会いです。強度行動障害で、どこの施設も断られた方でした。最初はフロアを走り回ったり、服を脱いでしまったり中々落ち着かない様子でした。でも音楽は好きな様子で跳ねたりしていました。最初は参加しているという感じではなかったですが、今はドラムセットを鳴らしています。また他の楽器にもチャレンジしています。

Q：普段大切にしている事は何ですか？

A：“人間性アプローチ”です。対象者自身が持っている力を音楽や私自身を使って引き出していきたいと考えています。対象者の行動には理由があり、それを音楽やセラピスト自身で受容し容認し発展させていくことができる音楽療法士を目指したいと考えています。



●佃 誉子会員（神戸市在住）

佃さんの訪問音楽療法に同行しました。A氏は、認知症を患い、意思疎通が難しく、通院・通所には強い拒否があり、服薬もできずにご自宅で過ごされています。奥様が介護を一手に担っておられます。ある日、流れてきた曲を娘様と歌い、笑い泣きすることがあり、奥様が「音楽ならいけるかも」と、地域の“あんしんすこやかセンター”に相談、佃さんを紹介されたそうです。「個人の訪問では、よりその方に添ったものが提供できます」と佃さん。現場では、A氏の過去と現在を意識して選曲した佃さん作成の歌詞集が使われます。氏は文字認識は曖昧ですが、記憶を頼りに歌い、時には合いの手の言葉に



より完結する歌もあり、にこやかな表情が見られます。わずかに出る言葉や表情、動き、仕草から、佃さんは気持ちを察し、同じ言葉で共感したり、声掛けをして進めています。奥様も同席され、声掛けや歌詞を一緒に指で追われます。「何ができるか否かではなく、今この時をどのように過ごすかを大切に、状況に応じての対応も心掛けています。介護でお忙しい奥様のご負担軽減にもなれば」と佃さん。奥様は「話せないもどかしさによる本人のストレス解消、歌うことで楽しく満足感を得ていると思います。以前はテレビの歌番組を自ら消すなど音楽とは無縁でした。今では“こんな歌も知っていたの？”と驚くことも（笑）。私も癒されています」「認知症状の進行、嚥下障害もなく、安心して過ごせています」と仰っています。

2022年度事業報告

主催コンサート

2017年度より音楽療法を広く県民の皆様に知っていただくため、音楽療法士による参加型コンサートを開催しています。今年度は、初めて阪神地区、伊丹市スワンホールにて、10月30日(日)に「ファミリーで楽しむハロウィンコンサート」を行いました。

秋晴れの下、ハロウィンにちなんで、『魔女の宅急便』のキキに扮する女の子や可愛い仮装姿で参加される方も多くみられ、コロナ禍にもかかわらず満員御礼となりました。

オープニング曲の演奏が始まると、ざわざわしていた会場は一気にステージに引き込まれていきました。このコンサートでは、音楽療法を少しでも体感していただければと、音楽を通じて客席の皆様と交流できるような工夫がたくさん! その中でも「がっきおぼけえ」は、音楽療法で使用する珍しい楽器をシルエットクイズ形式で楽しく紹介。楽器の音に耳を澄ませてから「Trick or Music!」の呪文を参加者全員で唱え、飛び出す絵本のように珍しい楽器がステージに登場。その楽器を持った療法士たちが『ゲゲゲの

鬼太郎』を演奏しながら客席の間を練り歩くと、子どもたちは目を輝かせて楽器に手を伸ばし、興味津々な様子でした。

また『ビビディ・バビディ・ブー』の曲では、手拍子やジャンプ等のボディパーカッションに挑戦。今まで着席していた子どもたちが元気よく立ち上がり、メロディの動きに合った楽しい振り付けに、自然と笑顔で身体が動きます。舞台と客席が一体となり盛り上がりしました。

「もっと聴きたかった」「妖怪好きなので、楽しかった」「『がっきおぼけえ』でいろんな楽器が面白かった」等の嬉しい感想をいただきました。音楽を介して交流できることが、音楽療法の醍醐味と感じられた時間でした。



依頼事業

西宮市地域婦人団体協議会委員さまからのご依頼～『音楽療法を用いた心と体の健康づくり』

西宮市地域婦人団体協議会様からご依頼をいただき、9月16日に西宮市男女共同参画センターにて、『音楽療法とは何か』『音楽療法を用いた心と体の健康づくり』をテーマに講演させていただきました。その講演では、担当者様と事前にやりとりした上で、音楽療法についての解説だけでなく、実際に音楽療法を体験していただくことを提案し実施しました。受講者の方々には、タンバリンやフレームドラム、大太鼓やコンガ等の打楽器を使って簡単な合奏、カスタネットを使ったリズム脳トレ、ご自宅でも行える健康歌体操を体験

していただきました(能動的音楽療法)。また、クールダウンとして最後にフルートの演奏も聴いていただきました(受動的音楽療法)。実際に体験していただくことで、特に地域での活動において何かヒントを求めて参加されていた老人会幹部の方や福祉協議会の方が、強く効果を感じられているようでした。講演会後には、このような音楽療法の体験型講演会を地域の老人会で行なって欲しいという声が聞かれました。ここから様々な方に音楽療法の良さが広がると嬉しいです。

芦屋市身体障害者福祉協会さまからのご依頼～創立70周年記念式典

11月27日、芦屋市身体障害者福祉協会創立70周年記念式典に参列させていただきました。協会は、「(身体障害者が)健常者と同等の立場で議論し、協力し、責任をともに負うことができれば、この芦屋市でも地域の住民との真のコミュニティが生まれる」(協会HPより)と考えて、活動を続けておられます。「障

害を持つ方の笑顔を引き出してほしい」とのご希望を受け、『里の秋』『紅葉』等の秋のメドレー、ジャズアレンジの『どんぐりころころ』、皆様とトーンチャイムで『かごめかごめ～通リゃんせ』の合奏、最後は『川の流れのように』を演奏しました。終了後、いくつか感想や、音楽療法への興味の声も聞かれました。おひと

り(聴覚障害)の方は、感想とともにトーンチャイムの体験から「私は低い音の方がよくわかります。でも他の(聴覚障害の)方は違うかもしれません」と障害の個人差を教えてくださいました。参列させていただき、障害をお持ちの方々の努力と地道な活動を少し知ることができ、真のコミュニティが生まれることを願

い、そのコミュニティの中で私たちも共に生き、活動させていただくことを、あらためて学びました。



兵庫県身体障害者福祉協会西播ブロックさまからのご依頼～「地域啓発総合福祉大会」

兵庫県身体障害者福祉協会西播ブロック様よりご依頼を受け、2月4日「地域啓発総合福祉大会」(佐用町)において講演を行いました。西播ブロックは、近隣4市6町の福祉向上のため互いに交流し理解を深め、住民が生きやすい社会を目指していらっしゃいます。「対象者のありのままを受け入れ、心身の健康な部分に音楽で働きかける」、「オーダーメイドの選曲」等と音楽療法の解説をし、実演へ。『世界の国からこんにちは』、季節の歌メドレーで馴染の歌を披露、

『We will rock you』では身体、楽器活動を行い、徐々に心身温まった様子。その後、『高校三年生』『故郷』等懐かしい曲では、自然と歌声が聞かれました。



研修会・事例研究会事業

※講師の肩書は研修会当時のものです

(第122回研修会 2月11日 ※前年度)
オンデマンド研修会 vol.6 (7/5～20)

山田 俊之先生 九州大谷短期大学教授、ボディパーカッション教育振興会代表
「子どもから大人まで楽しめるボディパーカッションにチャレンジ!」

第123回研修会 4月3日
オンデマンド研修会 vol.7 (8/4～19)

光平 有希先生 国際日本文化研究センター特任助教、京都市立芸術大学特別研究員
「日本音楽療法とははじめ ―江戸期～昭和戦前期を中心に―」

第124回研修会 5月22日
オンデマンド研修会 vol.8 (9/8～22)

村林 信行先生 医療法人社団信俊会 心療内科アーツクリニック大崎 院長
「心療内科・精神科領域からみた音楽療法」

第78回事例研究会 6月4日

後藤 浩子先生 日本音楽療法学会認定音楽療法士、臨床心理士、公認心理師
事例発表と事例検討

第79回事例研究会 7月3日

池田 智子先生 大阪成蹊短期大学特別専任講師
事例発表と講義「特別支援教育の現場で学んだこと」

第125回研修会 8月20日
オンデマンド研修会 vol.9 (10/13～27)

荒井 敦子先生 NPO法人音楽の森理事長、日本音楽療法学会認定音楽療法士 同監事
「歌の力～信じて」

第126回公開研修会 9月23日

青 拓美先生 日本音楽療法学会認定音楽療法士、(医法)高仁会顧問、
アオミュージックスクール代表
「歌唱音楽療法に求められる伴奏技術」

第127回公開研修会 10月10日

今村 ゆかり先生 (医) 哺育会 横浜相原病院リハビリテーション科音楽療法士、
東海大学・昭和音楽大学講師
「精神科臨床における音楽療法の可能性 ―精神科リハビリテーションとしての音楽療法を考える―」

第128回公開研修会 11月26日

長谷川 裕紀先生 武庫川女子大学共通教育部講師
「音楽療法におけるデータの活用を考える」

第80回事例研究会 12月17日

一ノ瀬 智子先生 武庫川女子大学音楽学部応用音楽学科教授
事例発表

第81回事例研究会 1月22日

岩井澤 奈巳先生 日本音楽療法学会認定音楽療法士、精神保健福祉士
事例発表

第129回公開研修会 2月23日

嶋村 順子先生 ATI認定アレクサンダー・テクニック教師、
SEI認定ソマティック・エクスペリエンシング・プラクティショナー
「自己調整～本来の自分らしさを取り戻す」

楽器紹介 & 音楽の豆知識

●フレクサトーン

【Flexatone=Flex (曲げる) Tone (音)】

今回は、当会が今年度の参加型コンサートで使用した楽器をご紹介します。薄い金属板の裏表に、金属の玉が二つ付いており、その楽器を振ると、その玉が金属板にあたって音が出ます。金属板の一端が金属棒の枠につながっており、その金属棒を演奏者は手の平でかかえ、親指やもう一方の手で鋼を圧して曲げることにより、音の高さを変えることができます。音程がなめらかに変わるため、「ひゅるる〜ん」「どろろ〜ん」といったおぼけが出てくるような効果音としてよく使われています。

最近では、『機動戦士ガンダム』のアニメの中で、「ニュータイプ」と呼ばれる者たちが何かを感じた時の効果音に使用されていることが有名です。現代音楽でもよく使われていますので一度は耳にされているでしょう。思ったように音を出すのは難しい楽器ですが、その独特の音に、注目度は高くなります！一度挑戦してみませんか？



上記QRコードからフレクサトーンの音を聴けます。

●なんだそりゃ!?

楽譜に書かれたびっくりする演奏指示

楽譜には、「フォルテ」など強弱記号の他にも、楽曲の性格や表情を指示する発想標語、例えば「カンタービレ(歌うように、表情こめて)」など作曲家の様々な指示が書かれています。中には思いもよらない指示が書かれた楽譜も存在します。今回は、作曲家マウリシオ・カーゲルによって作られた2つの楽曲をご紹介します。

①『ティンパニとオーケストラのための協奏曲』：演奏最後の場面でティンパニ奏者がティンパニに頭を突っ込むよう指示が書かれています。どう頭を突っ込むのかは、楽譜に絵が描かれてあります。この曲の演奏時は、破れやすいよう紙が貼られた特性のティンパニを使用するそうです。

②『フィナーレ』：なんと指揮者が急に倒れるよう指示が書かれています。「指揮者が突然痙攣に見舞われたかの様に硬直する。右の腕は上げられ…」といったように、倒れ方は詳細に指示されています。25分程の楽曲で、演奏開始後18分を過ぎた頃、突然指揮者が倒れます。そしてコンサートマスターが代わりに指揮を行い、曲の終わりを迎えるのです。

どのような想いで作曲したのか、とても気になりますね。Youtubeなどにも動画がありますので、気になった方はぜひ視聴してみてください。

■参考文献：『明解 新楽典』（音楽之友社）

■参考資料：クラシック音楽・オーケストラの総合情報サイト otomamire (<https://otomamire.com>)

information

♪ 音楽療法の実施や講演依頼等 … 事務局へお問い合わせください。

● 問い合わせ先 E-mail : jimukyoku@hmta.jp Fax : 078-261-9602



一般社団法人

兵庫県音楽療法士会

〒651-0062

神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6F

一般社団法人兵庫県音楽療法士会事務局

TEL (078)261-9601 FAX (078)261-9602

E-mail : jimukyoku@hmta.jp

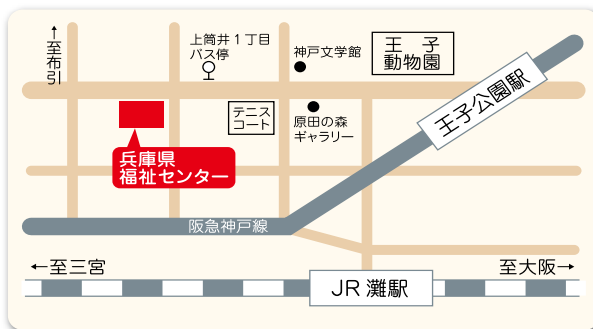
【アクセス】

JR 灘駅・阪急 王子公園駅下車徒歩約10分

神戸市バス(90・92系統)上筒井1丁目バス停下車すぐ

【ホームページ】

<https://hmta.jp>



ホームページでは、音楽療法に関すること、会の活動や公開研修会の案内などをご覧いただけます。



今号作成にあたり、私たち広報部では、広報誌の役割についてもう一度考えました。そして「音楽療法をもっと身近に感じて頂きたい」「広報誌をさらに興味を持って見て頂きたい」との思いを胸に、それぞれが取り組みました。各記事から、皆様に音楽療法の現場を想像していただけたら、幸いです。発行にあたり、ご協力頂きましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。(広報部 宇野)



2022年度理事

後列左から 広報部長：宇野京 理事長：井上恭子

副理事長：佃蒼子 企画部長：岸田由起

前列左から 事務局長：増井まり子 倫理部長：鞘本尚子

財政部長：久保田由賀里